# 2022 年度

理学療法士作業療法士養成施設指導ガイドラインの一部改正に伴う 「教員資格及び教育内容等の自己評価書」の公表について

リハビリテーション学科理学療法学専攻

# 様式3

# 教員資格及び教育内容等の自己評価書様式

# 【自己評価 1-1】専任教員の配置状況

				専任教	数員数						
学部 ・学科等 の名称	教授	准教 授	講師	助教	計	基準数	う理療士は業法数ち学法又作療士数	助手	非常 勒 員	専任教員 一人あた りの在籍 学生数	備考
保健医療 学部 リハビリ テーショ ン学科 理学療法 学専攻	6人	4 人	1人	3 人	14 人	9人	12 人	0人	44 人	25 人	
計	6 人	4 人	1人	3 人	14 人	9人	12 人	0人	44 人	_	

## 【自己評価1-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	理学療法士又は作業療法士である専任教員の配置人数が適正であり、かつ関連領域を教授で	3
	きる医師等の専門家が配置されている。	3
	理学療法士又は作業療法士である専任教員の配置人数が適正である。	2
	理学療法士又は作業療法士である専任教員の人数が適正でない。	1

## 【自己評価1-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	全ての養成施設指導ガイドラインの教育内容(講義)を専任教員か、専任教員と同等以上の	4
0	知識を有する教員が担当している。	4
	9割以上の養成施設指導ガイドラインの教育内容(講義)を専任教員か、専任教員と同等以	2
	上の知識を有する教員が担当している。	3

8割以上の養成施設指導ガイドラインの教育内容(講義)を専任教員か、専任教員と同等以	9
上の知識を有する教員が担当している。	2
上記以外である。	1

# 【自己評価1-4】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	専任教員 (理学療法士又は作業療法士) は、全員が臨床に携わることで臨床能力の向上に努	3
	めている。	J
	専任教員 (理学療法士又は作業療法士) は、一部が臨床に携わることで臨床能力の向上に努	2
	めている。	2
	専任教員 (理学療法士又は作業療法士) は、臨床に携わることで臨床能力の向上に努めてい	1
	ない。	1

## 【自己評価 2-1】養成施設指導ガイドラインとの連動状況

分野				担当教員		
(基礎・ 専門基礎 ・専門)	指定規則 教育内容	相当授業科目名	担当 コマ 数	氏名	職名 (専任・兼 任)	
		生物学	15	鈴木 研太	兼任	
		物理学	15	長谷川 克也	兼任	
		化学	15	小川 由香里	兼任	
		数学	15	蒼見 桂子	兼任	
		医療保健統計学	15	白戸 亮吉	兼任	
	科学的思考の基礎	文章表現演習	15	真船 えり	兼任	
tte ville	人間と生活	情報リテラシー	15	明上山 温	兼任	
基礎	社会の理解	基礎ゼミ	15	矢嶋 昌英 他	専任	
		体育 I	30	只隈 伸也 他	兼任	
		哲学	15	吉田 真哉	兼任	
		生命倫理学	15	吉田 真哉	兼任	
		心理学	15	木村 直樹	兼任	
		教育学	15	真船 えり	兼任	
		文学	15	塚原 孝	兼任	

1	1				· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·
		コミュニケーシ ョン論	15	桑田 美香	兼任
		英語 I (基礎英 語)	15	室田 聖子	兼任
		英語Ⅱ(文献講 読)	15	室田 聖子	兼任
		医療英語	15	天野 修司	兼任
		実践英語	15	天野 修司	兼任
		中国語	15	澁瀬 明美	兼任
		社会学	15	吉田 真哉	兼任
		歴史学	15	天野 修司	兼任
		国際関係論	15	天野 修司	兼任
		比較文化論	15	塚原 孝	兼任
		法学	15	三輪 睦男	兼任
		経済学	15	吉岡 陽祐	兼任
		国際保健学	15	天野 修司	兼任
	人体の構造と機能及び 心身の発達	解剖学 I (骨 学・筋学・靱帯 学・末梢神経 学)	30	宮脇 佳子	専任
		解剖学Ⅱ(中枢 神経学・脈管 学・内臓学)	30	宮脇 佳子	専任
		解剖学実習	45	宮脇 佳子	専任
		生理学 I (概 論)	30	吉村 和法 他	専任
専門基礎		生理学Ⅱ(各 論)	30	吉村 和法	専任
	心分り光達	生理学実習	45	吉村 和法	専任
		運動学 I	30	柳澤 勇	専任
		運動学Ⅱ	30	工藤 昌弘	専任
		運動学実習	45	<b>栁澤</b> 勇	専任
		臨床運動学	30	加藤 真由美 他	専任
		臨床心理学	30	酒井 彩子	兼任
		人間発達学	30	戸島 宇一郎	兼任
		人間と健康	15	鈴木 研太 他	兼任

	健康とスポーツ	15	西田典史	兼任
	病理学	30	阿部 裕輔	兼任
	衛生学・公衆衛 生学	30	鈴木 研太	兼任
	一般臨床医学	30	熊井戸 邦佳	兼任
	内科学	30	岩瀬 利朗	兼任
	整形外科学 I	30	関勝	兼任
	整形外科学Ⅱ	30	関勝	兼任
	神経内科学 I	30	池田 正明	兼任
	神経内科学Ⅱ	30	池田 正明	兼任
疾病と障害の成り立ち 及び回復過程の促進	精神医学 I	30	岩瀬 利朗	兼任
次U·国接過往V/促進	精神医学Ⅱ	30	岩瀬 利朗	兼任
	小児科学	30	先崎 秀明	兼任
	医療放射線学概 論	15	新藤 博明 他	兼任
	予防医学	15	一色 俊行	兼任
	救命救急医学	15	芳賀 佳之 他	兼任
	栄養学	15	坂本 友里 他	兼任
	微生物学	15	叶 一乃	兼任
	薬理学	30	木村 光利	兼任
	リハビリテーシ ョン概論	30	関勝	兼任
	チーム医療演習	30	遠山 範康 他	兼任
	リハビリテーシ ョン医学	30	関勝	兼任
	社会福祉学	30	山中 知則	兼任
保健医療福祉とリハビ リテーションの理念	障害者・高齢者 の福祉	30	山中 知則	兼任
	障害者・高齢者 の心理	30	森田 恵子 他	兼任
	作業療法学概論	15	徳永 千尋	兼任
	言語聴覚学概論	15	鈴木 智子 他	兼任
	スポーツ傷害学	15	樺澤 圭一	兼任
	看護学	8	豊吉 泰典 他	兼任

		臨床検査論	8	伊藤昭三	兼任
	基礎理学療法学	理学療法学概論	15	本橋 みどり	専任
		理学療法学基礎 演習	15	平野 恵健	専任
		理学療法学研究 法	15	矢嶋 昌英	専任
	理学療法管理学	理学療法部門管 理学	15	工藤 昌弘	専任
		理学療法教育論	15	柳澤 勇	専任
		機能·能力診断学 I	15	稲垣 郁哉	専任
		機能·能力診断学 II	15	奥山 文男	専任
		機能・能力診断 学演習 I	30	森田 悠介	専任
	理学療法評価学	機能・能力診断 学演習 II	30	山口 和人 他	専任
		理学療法検査学 演習	30	浅岡 祐之 他	専任
専門		理学療法評価学 演習	30	森田 悠介 他	専任
		生体観察と触診 法	30	本橋 みどり 他	専任
		動作分析学	15	工藤 昌弘 他	専任
		運動療法学 I	30	森田 悠介	専任
		運動療法学Ⅱ	30	浅岡 祐之	専任
		骨・関節系疾患 理学療法学	30	平林 佑介	兼任
	理学療法治療学	骨・関節系疾患 理学療法学演習	30	平野 恵健	専任
		成人中枢神経系 疾患理学療法学	30	森田 悠介	専任
		成人中枢神経系 疾患理学療法学 演習 I	30	森田 悠介	専任
		成人中枢神経系 疾患理学療法学 演習 II	30	森田 悠介 他	専任

	成人中枢神経系 疾患理学療法学 演習III	15	森田 悠介	専任
	小児中枢神経系 疾患理学療法学	30	平野 恵健	専任
	内部疾患系理学 療法学	30	伊藤 芳保	専任
	内部疾患系理学 療法学演習	30	伊藤 芳保	専任
	物理療法学	30	伊藤 芳保	専任
	物理療法学演習	30	浅岡 祐之 他	専任
	日常生活活動理 学療法学	30	奥山 文男	専任
	日常生活活動理 学療法学演習	30	奥山 文男	専任
	義肢装具学	30	柳澤 勇	専任
	義肢装具学演習	30	柳澤 勇	専任
	スポーツ理学療 法学	15	平野 恵健	専任
	理学療法技術論 I	15	浅岡 祐之	専任
	理学療法技術論 II	15	浅岡 祐之	専任
	総合理学療法演 習	30	森田 悠介 他	専任
	地域理学療法学	15	矢嶋 昌英	専任
	生活支援系理学 療法学	15	本橋 みどり 他	専任
地域理学療法学	地域リハビリテ ーション学	15	工藤 昌弘 他	専任
	生活環境学	15	本橋 みどり	専任
	理学療法臨床見 学実習	45	矢嶋 昌英 他	専任
	理学療法評価学 臨床実習 I	45	浅岡 祐之 他	専任
理学療法臨床実習	理学療法評価学 臨床実習Ⅱ	45	森田 悠介 他	専任
	理学療法治療学 臨床実習	45	平野 恵健 他	専任

		通所在宅理学療 法学臨床実習	45	森田 悠介 他	専任
		理学療法学研究 I	15	矢嶋 昌英 他	専任
	理学療法学研究	理学療法学研究 Ⅱ	15	矢嶋 昌英 他	専任

## 【自己評価 2-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
0	養成施設指導ガイドラインに基づき、教育課程を体系的に編成している。	3
	養成施設指導ガイドラインに基づき、教育課程をおおむね体系的に編成している。	2
	養成施設指導ガイドラインに基づいていない、または教育課程を体系的に編成していない。	1

## 【自己評価 2-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
0	シラバスにすべての授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法を明記している。	4
	シラバスにすべての授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法をおおむね明記している。または、大半の授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法を明記している。	3
	シラバスの記載が十分ではない。	2
	シラバスが作成されていない。	1

## 【自己評価3-1】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
0	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を実施している。	4
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習をおおむね実施している。	3
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を十分に実施していない。	2
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を実施していない。	1

#### 【自己評価 3-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
0	講義と関連の実習が十分に連動して実施されている。	4
	講義と関連の実習がおおむね連動して実施されている。	3
	講義と関連の実習が十分に連動して実施されていない。	2
	講義と関連の実習が連動して実施されていない。	1

●基本情報:臨床実習の見学又は実践する範囲とそれに関連する講義科目それぞれの開講時期を記入してください。

臨床実習の見学又は実践する範囲	開講時期	関連講義名	開講時期
理学療法の見学		理学療法学基礎演習	1年前期
		理学療法学概論	1年前期
理学療法臨床見学実習	1年前期	基礎ゼミ	1年前期
		チーム医療演習	1 年後期
		リハビリテーション概論	1 年後期
		生理学 I (概論)	1年前期
		運動学 I	1年前期
		解剖学 I (骨学・筋学・靱帯学・末 梢神経学)	1年前期
		機能・能力診断学 I	1年前期
		機能・能力診断学Ⅱ	1年前期
		病理学	1 年後期
		解剖学Ⅱ (中枢神経学・脈管学・内 臓学)	1年後期
検査測定実習 理学療法評価学臨床実習 I		解剖学実習	1 年後期
	2 年後期	生態観察と触診法	1 年後期
		運動学Ⅱ	1 年後期
		生理学Ⅱ (各論)	1 年後期
		生理学実習	1 年後期
		理学療法検査学演習	2年前期
		機能・能力診断学演習 I	2年前期
		機能・能力診断学演習 Ⅱ	2年前期
		成人中枢神経系疾患理学療法学	2年前期
		運動学実習	2 年前期
		リハビリテーション医学	2 年前期
		整形外科学Ⅰ	2年前期
		神経内科学 I	2年前期
		障害者・高齢者の心理	2 年前期
		物理療法学	2 年前期
		臨床運動学	2 年後期
		日常生活活動理学療法学	2 年後期

		神経内科学Ⅱ	2 年後期
		内科学	2 年後期
		成人中枢神経系疾患理学療法学演習 I	2 年後期
		成人中枢神経系疾患理学療法学演習 II	2 年後期
		理学療法臨床見学実習	1年前期
		臨床心理学	2 年前期
		小児科学	2 年前期
		精神医学 I	2 年前期
		骨・関節系疾患理学療法学	2 年後期
		内部疾患系理学療法学	2 年後期
		整形外科学Ⅱ	2 年後期
		義肢装具学	2 年後期
		物理療法学演習	2 年後期
		理学療法評価学臨床実習 I	2 年後期
評価実習	0 左纵 #8	理学療法評価学演習	3 年前期
理学療法評価学臨床実習Ⅱ	3 年後期	成人中枢神経系疾患理学療法学演習	3 年前期
		Ш	
		言語聴覚学概論	3年前期
		小児中枢神経系疾患理学療法学	3年前期
		義肢装具学演習	3年前期
		内部疾患系理学療法学演習	3年前期
		一般臨床医学	3年前期
		日常生活活動理学療法学演習	3年前期
		動作分析学	3年前期
		骨・関節系疾患理学療法学演習	3年前期
		通所在宅理学療法学臨床実習	3 年後期
		地域理学療法学	3年前期
通所在宅理学療法臨床実習		地域リハビリテーション学	3年前期
	3 年後期	生活支援系理学療法学	3年前期
		理学療法評価学臨床実習Ⅱ	3 年後期
総合臨床実習	, F= 27.1LB	理学療法評価学臨床実習Ⅱ	3 年後期
理学療法治療学臨床実習	4年前期	通所在宅理学療法学臨床実習	3 年後期

生活環境学	4年前期
スポーツ傷害学	4年前期
理学療法学研究 I	4年前期
スポーツ理学療法学	4年前期
理学療法技術論I	4年前期
総合理学療法演習	4年前期

## 【自己評価3-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設で十分な臨床実習が実施さ	3
	れている。	3
	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設で一部の臨床実習が実施さ	9
	れている。	2
0	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設を置いていない。	1

# 【自己評価 3-4】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
0	適正な臨床実習指導者の下で実習が実施されている。	4
	適正な教員の監督指導の下で実習がおおむね実施されている。	3
	適正な教員の監督指導の下で実習が十分に実施されていない。	2
	適正な教員の監督指導の下で実習が実施されていない。	1

## 【自己評価 3-5】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
0	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制があり、対応が十分である。	3
	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制はあるが、対応が十分でない。	2
	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制がなく、対応も不十分である。	1

# 【自己評価 4-1】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
0	自己点検・評価の体制があり、改善に向けて機能している。	3
	自己点検・評価の体制はあるが、改善に向けて機能していない。	2
	自己点検・評価の体制がない。	1

#### ●基本情報:自己点検・評価体制記入してください。

自己点検・評価組織名	自己点検・評価委員会
委員名 (委員長)	新藤博明
組織の開催頻度	年6回
	学生の受け入れに対しての点検・評価
200mmの形 10 21 7 中京	学生サービスにおける点検・評価
組織の取り組み内容	教育課程及び教授方法にける点検・評価
	社会貢献活動における点検・評価
自己点検・評価結果の公表	大学 HP における公表 URL:https://www.nims.ac.jp/about/info/jihee.html

#### 【自己評価 4-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	シラバス記載内容を改善する仕組みがあり、シラバスの記載内容の改善が行われている。	3
	シラバス記載内容を改善する仕組みはあるが、シラバスの記載内容の改善は十分ではな	9
	٧٠°	2
	シラバス記載内容を改善する仕組みがない。	1

#### ●基本情報:シラバス記載内容を改善する仕組みについて記入してください。

該当する仕組み	名称	教務委員会・FD 委員会・第三者チェック体制
	委員構成等	保健医療学部教務委員・FD 委員
	改善の仕組みの実際	毎年度、「シラバス作成のガイドブック」にて、教育課程における科目
		の位置づけなどに配慮した記述を促し、学生自身がディプロマポリシー
		に掲げる資質・能力を身につける事ができるよう授業計画を提示してい
		る。シラバス作成過程においては、各教員が作成後、教務委員による点
		検・承認後、学生に公開する仕組みを構築している。
		併せて、FD委員会では「教員による教育活動自己評価アンケート」に
		て、シラバスについての改善点を問うなど、恒常的にシラバスの改善を
		促している。

#### 【自己評価 4-3】自己点検・評価及び第三者評価の結果を改善に繋げるための取り組みを記入してください。

第三者評価では公益財団法人日本高等教育評価機構の認定とリハビリテーション教育評価機構の認証を受けているが、エビデンスの内容やフォーマットの整備等も年々構築されてきている。自己点検・評価委員会は第三者評価の準備と関連させて全学で取り組んでいる。発見された課題や修正点はPDCAサイクルを実践することで対応し、反映させている。